

目次

口絵	1
序	1
凡例	1
総合解説	1
第一章 尾張徳川家の成立と家政	11
第一節 支配体制の成立	12
名古屋遷府と築城／初期の藩政	12
第二節 家と家政	33
藩主と連枝／御殿の表と奥／他家との交際	33
第三節 幕府・朝廷との関係	92
役儀と儀礼／政治と情報流通	92
第二章 家臣団の特質	123
第一節 軍制と家臣団	124
藩成立期の軍制／同心頭と同心組／寛政期の軍制改革／ 嘉永・安政期の異国船警護／装備の近代化と兵制改正	124

第二節	家臣団と知行制	164
第三節	両家年寄成瀬家	186
成瀬家の役割／成瀬家の由緒と格式／成瀬家中諸事定／		
犬山城の修復／拝領鷹場の支配／犬山藩		
第四節	重臣と地域支配	237
第三章	藩政のしくみ	255
第一節	領国基盤の整備と支配構造	256
藩領の形成と基盤整備／藩政機構		
第二節	藩社会のひろがり	309
領国外の支配／他領との関係／山と川		
第四章	藩政の展開と財政	365
第一節	藩政の展開と藩財政の動向	366
初期藩政における財政／享保・元文期の藩政と財政問題／		
天明・寛政の改革と財政再建／天保・安政の改革と財政破綻		
第二節	災害への対応	420
洪水／地震その他災害		
第三節	米切手	435

第四節	調達金	459
第五節	藩主側金と尾張名目金	479
	藩主側金／尾張名目金	
第五章	武士身分とその周辺	485
第一節	身分と格式	486
	奉公の系譜と家格／家の存続／御目見・披露／直臣と陪臣	
第二節	勤務と給付	511
	召出と給付／人 事／屋敷拝領と武家地	
第三節	武家奉公人・雇い・出入りの者	534
	日用頭佐和屋理右衛門／江戸での奉公人の召抱え・雇い・出入りの者	
第四節	武家の暮らし	550
	家 計／御側寄物金と新田金／職 芸	
第五節	武士身分の周辺	598
	武士的処遇とその基準／支配の者	
第六章	寺社と領主	609
第一節	武家の菩提寺	610
	先祖の地／尾張徳川家の菩提寺／尾張徳川連枝家・藩士の菩提寺	
第二節	領内秩序と寺社	630

朱印地と黒印地／寺社と職能	656
第三節 領外世界と天変地異	656
他邦への美目／自然への畏怖／本末関係の中の尾張	656
第七章 学・芸へのまなざし	707
第一節 藩校の運営	708
明倫堂／江戸弘道館	708
第二節 所蔵書画と道具類	731
名古屋城／江戸屋敷	731
第三節 能楽・雅楽	748
能・狂言／雅 楽	748
第四節 政治文化	796
第八章 幕末尾張藩と名古屋藩	813
第一節 書状にみる幕末維新期の尾張藩	814
第二節 十四代藩主徳川慶勝「安政五年日記」	879
第三節 幕末の京都情勢と尾張藩	897
第四節 「待賓館御用留」にみる勤王誘引	911
第五節 維新政府と名古屋藩	918

解説	937
あとがき	1037
執筆分担	1039
資料提供者及び協力者	1040
愛知県史編さん関係者名簿	1042
関係人物一覧	1053
史料群別掲載史料一覧	1056

細目次

第一章 尾張徳川家の成立と家政

第一節 支配体制の成立

一 名古屋遷府と築城

- | | | |
|----|--|----|
| 1 | 大道寺直重召抱えにつき原田右衛門より石黒重成・舍人源太宛書状(慶長六年六月)…………… | 12 |
| 2 | 大道寺直重宛松平忠吉朱印状(慶長六年七月)…………… | 12 |
| 3 | 松平忠吉分限帳写(抄)(慶長年間)…………… | 12 |
| 4 | 徳川秀忠尾張領知状(慶長十三年八月)…………… | 13 |
| 5 | 名古屋城普請についての通達につき土佐藩山内忠義より重臣宛書状(慶長十五年閏二月)…………… | 13 |
| 6 | 名古屋城普請につき土佐藩山内忠義より重臣宛書状(慶長十五年閏二月)…………… | 14 |
| 7 | 名古屋城普請状況につき土佐藩前野豊成より右筆五月長左衛門尉宛披露状(抄)(慶長十五年六月)…………… | 15 |
| 8 | 船御用につき加藤清正より牧長勝・滝川忠征宛書状(慶長十五年七月)…………… | 16 |
| 9 | 名古屋城普請材木川狩指示などにつき大久保長安より山村良勝宛書状(慶長十五年十月)…………… | 17 |
| 10 | 清須城天守名古屋到着につき志水忠宗より中井正清宛書状(慶長十六年七月)…………… | 17 |
| 11 | 名古屋城三之丸堀普請などにつき森忠政より滝川忠征宛書状(慶長十六年十二月)…………… | 18 |
| 12 | 名古屋城作事につき徳川家康黒印状(慶長十七年五月)…………… | 18 |
| 13 | 名古屋城天守の造営を急ぐよう命じる中井正清宛年寄連署奉書(慶長十七年六月)…………… | 19 |
| 14 | 小堀城一ほか五家家臣による尾州方材木目録(慶長十七年九月)…………… | 19 |
| 15 | 名古屋城本丸石垣の再普請願につき福島正則より中井正清宛書状(慶長十九年八月)…………… | 20 |
| 16 | 徳川秀忠名古屋城御成につき志水忠宗より成瀬正成・竹腰正信宛書状写(慶長十九年十一月)…………… | 20 |
| 17 | 名古屋城・犬山城修復につき伊丹康勝より竹腰正信・成瀬正虎宛書状(寛永七年八月)…………… | 21 |
| 18 | 名古屋城・犬山城修復につき松平正久より竹腰正信・成瀬正虎宛書状(寛永七年八月)…………… | 22 |
| 19 | 名古屋城・犬山城修復許可につき松平正久ほかより竹腰正信・成瀬正虎宛書状(寛永七年八月)…………… | 22 |
| 20 | 名古屋城・犬山城修復につき新見正成・岩田長右衛門より竹腰正信ほか宛書状(寛永七年八月)…………… | 22 |
| 21 | 徳川家光上洛に際して名古屋御殿作事無用につき付家老宛年寄連署奉書(寛永十年五月)…………… | 23 |
| 22 | 大沢権九郎宛知行目録(元和三年十二月)…………… | 23 |
| 23 | 大沢権九郎宛徳川義直知行宛行状(元和六年九月)…………… | 24 |
| 24 | 千村良重の付属につき土井利勝より成瀬正成宛書状(元和五年十一月)…………… | 24 |
| 25 | 千村良重の付属申渡しにつき成瀬正成・竹腰正信宛年寄連署奉書(元和五年十二月)…………… | 25 |
| 26 | 成瀬勝吉らの処分につき土井利勝より成瀬正成宛書状(元和六年十一月)…………… | 25 |
| 27 | 原田右衛門の処分につき土井利勝より竹腰正信宛書状(寛永六年正月)…………… | 26 |
| 28 | 竹腰正信娘の成瀬正虎入嫁につき松平正久・日下宗好より徳川義直小姓衆宛書状(寛永六年十二月)…………… | 26 |
| 29 | 志水忠政子息を証人に差し出すにつき付家老宛老中連署奉書(寛永十一年から十五年頃)九月…………… | 27 |
| 30 | 竹腰正晴証人交替につき酒井忠吉・杉浦正友より成瀬正虎宛書状(正保二年)十一月…………… | 27 |

31	藩領のキリシタン禁制の徹底を求める竹腰正信・成瀬正虎宛老中連署奉書（寛永十二年八月）……………	27
32	キリシタン入牢につき竹腰正信・成瀬正虎宛老中連署奉書（寛永十二年十一月）……………	28
33	キリシタン処罰につき竹腰正信・成瀬正虎宛幕府老中連署奉書（寛永十二年十二月）……………	28
34	道中触につき松平正久より成瀬正虎・竹腰正信宛書状（寛永元年二月頃）五月……………	29
35	熱田・名古屋両伝馬宿定めにつき竹腰・成瀬宛幕府年寄連署奉書（寛永四、五年頃）正月……………	29
36	献上品への礼とりなし願うにつき神谷正次より竹腰正信宛書状（寛永三年閏四月）……………	30
37	本多忠利女ら黄金拝領の礼とりなし願うにつき井上正就より竹腰正信ら宛書状（寛永四年七月）……………	30
38	江戸京都間の悪党取締りにつき竹腰・成瀬宛老中連署奉書（寛永十三から十五年頃）十月……………	31
39	江戸城普請石材・石船につき普請奉行加藤光直らより竹腰正信・成瀬正虎宛書状（寛永五年十一月）……………	31
40	伊勢参宮の礼状への返礼につき九鬼守隆より滝川忠征宛書状（寛永七年二月）……………	32
41	尾張大洪水見舞いにつき金地院崇伝より竹腰正信・成瀬正虎宛書状（八月）……………	32
第二節 家と家政		
一 藩主と連枝		
42	分与金銀につき徳川義直改め請書（元和二年四月）……………	33
43	徳川光友宛徳川義直遺言状（慶安三年二月）……………	33
44	成瀬正虎ほか重臣宛徳川義直遺言状（慶安三年二月）……………	34
45	二代藩主光友の家督相続および上国についての記録（慶安三年六月から同四年三月）……………	35
46	二代藩主光友の上国についての記録（慶安三年七月から同四年三月）……………	40
47	二代藩主光友の参勤・滞府についての記録（慶安四年四月から承応元年六月）……………	53
48	御印帳（抄）（享保十五年）……………	55
49	七代藩主宗春二十三回忌への香奠下賜につき一件記録（天明六年八月）……………	57
50	替地願いにつき高須藩主松平義建覚書（抄）（天保十年）……………	59
二 御殿の表と奥		
51	江戸市ヶ谷屋敷拝領に関する記録（明暦二年三月から同三年十二月）……………	67
52	江戸市ヶ谷屋敷引き移りに関する記録（明暦三年十二月から同四年二月）……………	70
53	江戸戸山屋敷の来客に関する記録（寛政五年三月から同十年十月）……………	71
54	淑姫入興時の公儀付人への扶持方に関する記録（文化三年十二月）……………	75
55	淑姫入興に伴う奥女中勤め方改正につき留書（抄）（天保十四年）……………	76
三 他家との交際		
56	尾張徳川家の縁家および交際儀礼についての留書（抄）（寛政年間）……………	79
57	江戸における行合時の作法についての留書（抄）……………	82
58	尾張徳川家の出入衆由緒書（安永年間）……………	84
第三節 幕府・朝廷との関係		
一 役儀と儀礼		
59	江戸城普請役免除につき普請奉行より伊豆石奉行宛書付写（寛永五年十二月）……………	92

60	明暦三年公儀献上石および預り石につき三浦石丁場村々より尾張藩石奉行宛書写（元禄十年八月）……………	93
61	尾張・水戸両家石丁場につき石預り村々より三島代官所宛書写（寛延四年九月）……………	93
62	二代藩主光友らによる関東鷹場での獲物書上 （寛文九年十一月）……………	94
63	鷹場法度につき武蔵国鷹場村々より預人宛請書 （安永四年二月）……………	95
64	小鮎鮎献上につき次第留書（文化十三年）……………	97
65	徳川義直所望の土佐駒進上申付けにつき山内忠義より小倉政実宛書状（抄）（寛永十九年二月）……………	99
66	歴代藩主初官位および位記口宣に関する記録（抄）……………	100
67	三代藩主綱誠の量官に関する記録（寛政年間）……………	104
68	東山天皇即位に際しての諸方献上物につき書付 （貞享四年四月）……………	108
69	東山天皇即位式拝見次第につき三浦為隆より石河章長宛書状 （貞享四年四月）……………	108
70	東山天皇即位への祝儀献上の報告につき石河章長より野崎兼洪ら宛書状写（貞享四年五月）……………	109
71	二 政治と情報流通 鉄砲改方につき御城帳書付写（宝永六年四月）……………	110
72	御城書処理方変更につき江戸詰年寄留書（宝永八年四月）……………	110
73	十二代藩主斉荘危篤に際して老中阿部正弘より上意伝達につき尾張藩年寄問書状（弘化二年七月）……………	111
74	公刃指示により藩主遣児昌丸の養子願見合せにつき尾張藩年寄問書状（弘化三年二月）……………	111
75	側近佐藤時克による徳川斉朝の意向表明につき石河光茂・高橋河内守宛書状（五月）……………	112
76	徳川斉朝内密沙汰の佐枝種武処分一件評議願うにつき石河光茂らより書状（弘化三年閏五月）……………	113
77	徳川斉朝による佐枝種武の帰国不許可通知につき石河光茂書状草稿（弘化三年十一月）……………	114
78	佐枝処分の一件で江戸詰年寄への指示伺いにつき石河光茂らより徳川斉朝宛書状（弘化三年十二月）……………	114
79	佐枝種武退役跡役人事につき竹腰正富らより石河光茂ら宛書状（弘化四年正月）……………	115
80	老中阿部正弘より事態取捨のため竹腰正富へ帰国指示あるにつき尾張藩年寄問書状（弘化四年四月）……………	116
81	幕命により竹腰正富帰国の上政治取札しの件承知につき書状案……………	117
82	十三代藩主慶城重篤ゆえ將軍家へ利姫との離縁伺うにつき書状案写（嘉永二年四月）……………	117
83	將軍家意向をうけ跡目相続方照会につき成瀬正住ほかより石河光茂ほか宛書状（嘉永二年四月）……………	118
84	徳川斉朝意向は一橋・水戸・四谷子息と斉荘娘の婚札相続につき尾張藩年寄問書状（嘉永二年四月）……………	119
85	貞慎院の処遇問題および跡目婚札相続願の状況につき尾張藩年寄問書状（嘉永二年閏四月）……………	120
86	上意により慶勝跡目相続につき江戸惣年寄より尾州惣年寄宛書状（嘉永二年閏四月）……………	121
第二章 家臣団の特質		
第一節 軍制と家臣団		
87	一 藩成立期の軍制 大坂の陣における軍団編成および武功の記録 （慶長十九年から元和元年）……………	124
88	二 同心頭と同心組 幼少であるが先祖の戦功あるため減知にて同心申付けを求め る大道寺直長願書写（安永二年五月）……………	141
89	大道寺玄蕃組同心高野瀬仙太郎ら改易処分一件の記録 （安永四年十月）……………	142

90	犬山城番馬廻組任命についての記録（寛政十一年十一月）……………	145	103	知行一五〇石以下の藩士は跡式減少なきにつき仰渡し書写（寛文三年十二月）……………	170
	三 寛政期の軍制改革				
91	有事における重臣の守衛場所についての指示書（寛政六年四月）……………	147	104	役職ごとの切米高改定の定書（元禄六年）……………	170
92	大備えにおける戦闘要員および兵器数量などの見積書（寛政六年九月）……………	148	105	武野新助家の知行所に関する記録（抄）（元禄十一年・十二年）……………	175
93	軍制改革につき各部署へ配付した軍用書類の目録写（寛政六年九月）……………	150	106	藩士跡式世禄につき触書写（寛政十一年四月）……………	177
	四 嘉永・安政期の異国船警護		107	改革につき寛政時に基づいた儉約を藩士に命ずる触書写（安政二年二月）……………	179
94	渡辺寧綱率いる寄合組および百人組によるペリー来航に伴う江戸警固に関する記録（嘉永七年）……………	152	108	三 元治期の給人の土着 給人に土着を命ずる触書素案（元治元年）……………	180
95	ペリー来航による江戸表惣備えにおける両家年寄指揮下となる部隊の決定通知書写（嘉永七年正月）……………	158	109	千石以上藩士に対し土着を命ずる触書写（元治元年五月）……………	181
96	渡辺寧綱到着前後の江戸の様子を伝える書状写（嘉永七年正月・二月）……………	158	110	千石以上藩士の土着に関する記録（元治元年七月）……………	183
97	異国船警固のため領内の村より江戸築地屋敷への浦水主差出しにつき届書写（安政二年二月）……………	160			
	五 装備の近代化と兵制改正		111	成瀬・竹腰両家の知行高に関する大目付よりの問合せおよび返答書写（享保十一年七月・八月）……………	186
98	兵制改正につき触書写（慶応四年三月）……………	162	112	藩の權威をもって犬山城郭内へ立ち入った役人の取調べにつき成瀬家より通知書写（弘化二年三月）……………	187
99	銃卒の制服につき触書写（慶応四年閏四月）……………	163			
	第二節 家臣団と知行制		113	成瀬正成口宣案（慶長十二年閏四月）……………	188
	一 四ツ概と在所持ち給人		114	成瀬正寿と摂津守任官直後の高須藩松平義建との行合一件の記録（文政七年十月）……………	189
100	水野惣右衛門家「在所由緒手続書」にみる四ツ概に関する記録（明治初年）……………	164	115	成瀬家所持の大坂堺屋敷地内の借家修復のため借地料免除を求める願書写（文化十二年九月）……………	190
101	生駒利勝「覚書」にみる四ツ概に関する記録（天和元年十二月）……………	166	116	成瀬家知行所内における処罰および赦免に関する記録……………	191
	二 地方知行と蔵米知行		117	成瀬家に入入りする商人らの書上……………	193
102	藩財政逼迫に伴い跡式減少につき仰渡し書写（寛文元年九月）……………	169	118	成瀬正肥の功績に対して先祖ゆかりの地を与えるよう幕府に求める願書写（元治元年五月）……………	194

132	江戸・尾張年頭御礼における石清水八幡社士による志水家への訪問の記録（文化六年正月・二月）……………	244
131	種長との内談記録（寛永十八年十一月）……………	242
130	石河家支配を望む摂津国武庫郡門戸村・瓦林村より代官中島氏宛願書（明治三年十月）……………	241
129	石河家在所美濃国羽島郡駒塚村の地役人の任免に関する書類（嘉永から文久）……………	240
128	由緒格別の在所につき普請役免除を求める加茂郡寺部村給人渡辺半蔵家の記録（享保八年九月）……………	237
127	名古屋藩への成瀬家中屋敷返上に関する記録（明治三から四年）……………	234
126	名古屋藩への成瀬家拝領屋敷返上に関する記録（慶応四年から明治三年）……………	230
125	成瀬家鷹場見廻り役拝命につき清須代官所宛届書写（文政四年十一月）……………	229
124	成瀬家拝領鷹場指示杭の書上（寛政十年八月改）……………	226
123	城下大火による犬山城焼失箇所修復に関する一件記録（抄）（天保十三年）……………	214
122	宝永七年の犬山城破損箇所修復に関する記録（抄）（正徳二年）……………	210
121	犬山城修復の許可を得た際の記録（貞享四年十月）……………	210
120	犬山城桐之丸修補許可につき老中連署状（寛文八年四月）……………	209
119	成瀬家諸事定書（抄）（万治二年二月）……………	195

133	木曾衆山村甚兵衛家・千村平右衛門家に関する記録（抄）（享保八年十月）……………	247
-----	---	-----

第三章 藩政のしくみ

第一節 領国基盤の整備と支配構造

136	藩領地および新田高の内訳に関する記録（宝暦十二年閏四月）……………	257
135	岐阜町編入方針につき成瀬正成・竹腰正信より藤田忠次宛書状（元和四年九月）……………	256
134	中ら連署状（元和二年六月）……………	256
133	一 藩領の形成と基盤整備	
132	一 藩領地美濃国の物成請取につき成瀬正成・竹腰正信宛幕府老中ら連署状（元和二年六月）……………	256
131	二 藩政機構	
130	一 年寄の月番制決定の記録（寛文二年四月）……………	281
129	二 江戸からの相談事項への対応方法についての申合せ書（享保九年春）……………	281
128	一 評定所の機能についての記録（抄）……………	282
127	二 評定所における諸規定（宝永四年）……………	284
126	三 七里飛脚についての記録（寛政年間）……………	285
125	四 領地拝領以来の代官制度についての記録（宝暦六年三月）……………	286
124	五 大代官覚書（抄）（天明三年より）……………	297
123	六 横須賀代官の勤務録（安政三年・六年）……………	299
122	七 大坂天満屋敷の機能についての記録……………	305

第四節 重臣と地域支配

150	亡兄中西甚右衛門が尾州掛り要用のため借用した残銀の覚書 (天明七年十月)……………	307
151	尾張藩大坂天満屋敷の仕様見積書(抄)および絵図面……………	308
第二節 藩社会のひろがり		
一 領国外の支配		
152	美濃国の知行所における物真似狂言など興行につき竹腰正武より口上書写(享保十二年正月)……………	309
153	美濃国における伝馬銀取立てについての覚書 (享保三年五月)……………	310
154	十二代藩主斉荘の領内巡覧につき生駒周見より成瀬正住宛書状写(天保十三年八月)……………	310
155	十二代藩主斉荘の岐阜御成に関する長良川役所改役西川正規の記録(天保十四年九月)……………	311
156	近江国の尾張藩領を大代官らが廻村につき触書写 (天保五年七月から八月)……………	320
157	近江八幡町が尾張藩領となるにあたり海東郡津島村渡辺又蔵の献策書写(天保十一年十月・十一月)……………	321
158	近江八幡町が尾張藩領となることに対し永御料を願う一件記録(天保十二から十三年)……………	330
159	近江八幡町の幕領復帰に際しての八幡町民市田直良の記録 (嘉永七年六月)……………	331
160	近江八幡町の尾張藩領編入および幕領復帰の経緯についての奥村得義の覚書……………	332
二 他領との関係		
161	美濃国平島陣屋旗本坪内家の尾張藩主御目見に関する記録 (安永五年二月)……………	332
162	知行所内の山論の内済取扱いを尾張藩に依頼する交代寄合高木家役人間の書状写(天保六年二月)……………	334
163	木曾川砂留および桑名川洲浚えにつき美濃伊勢両国幕領惣代より尾張藩役所宛願書(明和二年三月)……………	336
164	美濃岩村藩との相給地馬場山田村と同藩領岩村の山境杭をめぐる争論の記録(抄)(明和七年四月)……………	339
165	堤強化普請の掛合いの交渉を求める近江国蒲生郡弓削村ほかより大代官宛願書下書……………	353
166	坂下宿助郷免除の掛合いを藩に求める近江国尾張藩領七か村より大代官宛願書写(文政十三年三月)……………	355
三 山と川		
167	尾張藩による木曾山管理と木曾川支配に関する記録 (寛文四年・五年)……………	357
168	木曾福島立合役所設置につき覚書(享保九年八月)……………	358
169	木曾材木方役所と山村家との関わりを示す年間行事の記録 (天明七年)……………	358
170	木曾川通行や継問屋設置に関する定書写 (万治二年から延宝九年)……………	359
171	役銀取立て・陸揚げ・梶乗り下しに関する長良川役所の定書写(十八世紀)……………	360
172	上方行荷物船および梶を濃州三湊へ着けるにつき申付け状写(元和七年四月)……………	363
173	近江八幡をめぐる交通路につき覚書(天保十二年正月)……………	363
第四章 藩政の展開と財政		
第一節 藩政の展開と藩財政の動向		
一 初期藩政における財政		
174	名古屋辻番人の給与と支配についての記録(寛文元年九月)……………	366
175	寛文七年の歳出見積書(寛文六年十一月)……………	366
176	夫銀および堤銀倍増についての記録(寛文八年正月)……………	366
177	尾張徳川家知行高書上写(寛文十一年八月)……………	367
178	二代藩主光友夫妻の賄方入用金請取につき成瀬正虎より竹腰正信宛書状(寛永十八年正月)……………	368

179	延宝六年築立の鳥ヶ地前新田由緒覚書(抄) (享保十一年十一月)……………	368
180	財政困窮に伴う藩士の負担増についての記録(天和年間)……………	369
181	収支見積書(天和元から二年)……………	370
182	光友隠居に伴う収支見直し計画書(元禄六年八月)……………	378
	二 享保・元文期の藩政と財政問題	
183	延宝六年および天和元年の簡略令を遵守すべき旨仰渡し書写 (正徳六年三月)……………	382
184	財政改革に伴う人員整理についての記録(享保八年・九年)……………	383
185	参勤交代費用見積書写(享保九年)……………	384
186	七代藩主宗春による規制緩和についての記録(享保十六年)……………	385
187	七代藩主宗春参勤時の記録(享保十七年三月)……………	386
188	臨時支出増大についての記録(元文二年・三年)……………	388
189	儉約令の延長につき仰渡し書写(延享二年閏十二月)……………	390
190	蔵入地の年貢率書上(寛延二年から嘉永元年)……………	391
191	藩士供廻りの人数制限などを求める触書写(明和六年)……………	393
	三 天明・寛政の改革と財政再建	
192	人見磯邑の登用につき竹腰勝紀より成瀬正泰宛書状下書 (天明五年以降)十二月……………	394
193	役人勤め方に関する幕府通達の趣旨の理解を求める通知 (天明七年八月)……………	395
194	名古屋における商品移出額報告書写(寛政四年十一月)……………	396
195	尾張藩蔵物詐欺事件一件記録(抄)(文化初年)……………	397
196	早期に為替両替所を名古屋に設立することを求める井筒屋源 助より願書控(文化三年八月)……………	400
197	瀬戸焼販売拡大に寄与した者へ扶持下されたきにつき久留米 屋利助より願書写(文化九年十二月)……………	403
198	吟味中の勝手用途の途中経過報告につき水口屋為吉宛書状 (文政四年九月)……………	404
	四 天保・安政の改革と財政破綻	
199	十二代藩主斉荘養子相続につき前々藩主斉朝より藩内への仰 渡し書写(天保十年五月)……………	404
200	間屋制度廃止につき触書写(天保十三年)……………	405
201	仕送り三家任命につき仰渡し書写(天保十四年六月)……………	407
202	天保十四年時の仕送り三家による繰出金利息米請取の覚書 (抄)(嘉永三年正月)……………	407
203	間屋復活を求める信州問屋より嘆願書控 (天保十四年十二月)……………	408
204	金銀融通方と勝手懸りを分離する改革案を求める改革担当生 駒周見宛仰渡し書(天保十五年二月)……………	408
205	仕送り引請けにつき永楽屋きくらより勝手方勘定所宛口上書 写(嘉永二年五月)……………	409
206	仕送り三家の件などにつき佐枝種武を糾弾する側用人より上 書写(弘化三年閏五月)……………	410
207	尾張藩収支決算書(安政三年)……………	414
	第二節 災害への対応	
	一 洪水	
208	洪水被害状況とその対応についての記録 (寛文六年・宝暦七年・寛政元年)……………	420
209	延宝五年の洪水に伴う夫食米借用証文写(延宝六年正月)……………	421
210	延宝二年・三年の洪水に伴う夫食麦稗請取配付覚書写 (延宝六年七月)……………	422
211	油島新田地先洗環締切の停止を求める海西郡高田村ほかより 笠松代官所宛願書(明和三年二月)……………	423
212	木曾川堤補強のための普請についての記録 (寛政三年十二月)……………	424

213	領内における河川改修についての記録（文化六年）……………	425
214	木曾川的美濃側堤防決壊による美濃国厚見郡苦島村ほかへの 夫食配付完了報告書（嘉永七年六月）……………	427
215	木曾川の尾張側堤防普請の計画変更を求める美濃国各務郡前 渡村ほかより願書写（安政三年六月）……………	428
216	二 地震その他災害 災害による被災家屋に対する手当金についての記録……………	429
217	天保七年の凶作における領民への救恤についての政策決定過 程の記録（天保八年）……………	430
218	安政地震の被害状況につき滝川忠雄宛報告書 （安政元年十一月）……………	431
219	安政地震被災者への救恤金支給手続につき小納戸頭取正木宗 兵衛より申渡し書（安政元年十二月）……………	431
220	瀬戸焼の地震被害からの復興策検討を指示する十四代藩主慶 勝より書状（安政元年十二月）……………	433
221	地震による被害に対する代官所別の修復費用見積書 （安政元年）……………	434
第三節 米切手		
222	米切手発行についての尾張藩士の見解（寛政四年五月）……………	435
223	米切手に領内の米の値段を書き加えることに對する幕府より の許可書写（寛政四年六月）……………	436
224	米切手の正金引替えに際し添印を求められた名古屋商人の組 別人数書上（文化五年）……………	437
225	米切手正金引替えにつき農方三分商方七分とされたき旨農方 用達より願書写（文化六年九月）……………	437
226	米納払および金納払についての収支見積書（文政二年）……………	439
227	綿作不作による正金引替え難渋につき農方用達より勘定所宛 願書控（天保三から四年）……………	445
228	米切手引替えについての記録 （天保十五年十一月から弘化二年十月）……………	450
229	米切手正金引替えのための日懸銭差止めにつき成瀬正住らよ り石河光茂ら宛書状（弘化三年三月）……………	451
230	米切手正金引替えにつき近江八幡用達商人調達金の記録 （弘化四年）……………	452
231	先年の通りの米切手通用を求める農方勝手用達武田新藏らよ り願書下書（嘉永元年十二月）……………	454
232	米切手引替えのための調達金につき勝手方勘定所より仕送り 三家宛証文写（嘉永四年十二月）……………	456
233	米切手引替えにつき調達金の記録（嘉永五年・六年）……………	456
第四節 調達金		
234	將軍御成御用につき上方よりの調達金の記録 （元禄十三年十二月）……………	459
235	將軍御成御用につき在方よりの調達金の記録 （元禄十四年三月）……………	461
236	諸家への貸付状況につき和泉国食野次郎左衛門より幕府への 届書写（天明六年六月）……………	462
237	さまざまな調達金返済についての記録（寛政四年より）……………	463
238	勝手用達からの調達金の記録（寛政十から十二年）……………	471
239	臨時支出の記録（嘉永二年）……………	472
240	鴻池新十郎家よりの調達金の記録（嘉永四年より）……………	473
241	大坂用達役中西孫八郎を通じた調達金の記録 （嘉永四年より）……………	475
242	旧藩調達金の返済方法につき徳川慶勝・同義宜より書状 （明治五年五月）……………	478
第五節 藩主側金と尾張名目金		
一 藩主側金		
243	御側寄物金の元金高についての記録（安永六年）……………	479

244	水口屋伝兵衛らより小納戸役所宛御小納戸新田金借用証文 〔文政元年十二月〕……………	479
245	御小納戸新田金取扱方改正による納払差引勘定についての記 録〔天保九年正月〕……………	480
246	小天守直封囲金の貸出記録〔文化十二年五月〕……………	481
	二 尾張名目金	
247	近江国蒲生郡日野屋小兵衛らより尾張藩御用所宛尾州様為替 金請合証文写〔天保八年正月〕……………	481
248	尾張藩貸付御用所を通じた貸付金の訴訟につき京都中井正次 右衛門より返答書写〔弘化二年正月〕……………	482

第五章 武士身分とその周辺

第一節 身分と格式

249	一 奉公の系譜と家格 家譜差出しにつき側大寄合高橋司書より触書写 〔文化八年九月〕……………	486
250	三千石以上の者を代々大寄合に仰付け下さるよう生駒周見は かより内願書控〔文政十一年四月〕……………	487
251	家格の儀につき荒川采女・水野康民より申立書写 〔文政十三年五月〕……………	488
252	三千石以上の者の座席引上げにつき書状 〔弘化四年三月・四月〕……………	489
	二 家の存続	
253	家中知行取の隠居願はじめ諸願書につき側同心頭より申渡し 書写〔宝暦四年九月〕……………	491
254	中山勝全の遺言書〔安政五年六月〕……………	492
	三 御目見・披露	
255	御目見の藩士の支配分けにつき年寄衆より申渡し書写 〔寛保三年十二月〕……………	499

256	十二代藩主斉荘入国の際の道中供奉帳〔抄〕 〔天保十一年・同十四年〕……………	500
	四 直臣と陪臣	
257	横井孫右衛門家法度書ほか諸定書写〔延享五年二月〕……………	504
258	山村甚兵衛家福島法度書写〔寛政三年十二月〕……………	507
259	志水忠平家来川口斉右衛門悴理一郎仕置き一件記録 〔文久三年十二月〕……………	509
	第二節 勤務と給付	
	一 召出と給付	
260	夫銀および路銀についての定書写〔元禄年間〕……………	511
261	江戸・京都詰藩士の者への路銀・夫銀支給基準改定につき側 同心頭より申渡し書写〔延享三年二月〕……………	515
262	新規召出の藩士への切米支給方法改定につき国用人より触書 写〔延享四年十二月〕……………	519
263	小納戸役就任につき家族・配下に切支丹宗門の者なき旨大塩 清倫より請書控〔宝永元年十月〕……………	520
264	側大寄合見習就任につき石河太八郎より起請文前書控 〔享和二年十月〕……………	520
	二 人事	
265	寺社廻り役人選につき種田貞右衛門より内願書控 〔嘉永五年八月〕……………	521
266	書院番組入りたきにつき寄合組神谷弥五左衛門より内願書 〔元治元年四月〕……………	522
267	遠山彦四郎を岐阜奉行に就任させるにあつての生駒周行よ り人事案伺書〔慶応四年二月〕……………	522
268	大塚半次郎の熟田奉行転役一件留〔抄〕〔安政二年十二月〕……………	523
	三 屋敷拝領と武家地	
269	藩士の屋敷拝領につき定書〔享保四年四月〕……………	527

270 大道寺直寅西下屋敷買上げにつき一件留(天保八年十月)……………530

271 渡辺在綱上り屋敷を明倫堂へ譲渡するにつき留書
(慶応四年二月)……………532

272 場所柄につき三の丸・片端曲輪において惣内は病犬狩をいた
さぬ旨申渡し書写(宝暦九年閏七月)……………533

第三節 武家奉公人・雇い・出入りの者

一 日用頭佐和屋理右衛門

273 日用御用につき佐和屋理右衛門値段留帳(抄)
(安永九年十二月)……………534

274 徳川綱誠参府につき供揃えの日雇い値段覚書
(元禄三年二月)……………545

二 江戸での奉公人の召抱え・雇い・出入りの者

275 江戸表奉公人召抱えの仮請人につき目付方申渡し書写
(寛保二年五月)……………546

276 江戸麹町屋敷掃除仰付けられたきにつき武蔵国多摩郡中野村
宇右衛門より嘆願書写(享保十年九月)……………546

277 江戸市ヶ谷屋敷不浄掃除など御用につき武蔵国豊島郡戸塚村
甚右衛門より請書(文化五年閏六月)……………547

278 異国船渡来の際の御用人足調達につき武蔵国豊島郡戸塚村甚
右衛門より請書控(文久三年三月)……………548

279 小納戸呉服御用出入につき上野国山田郡桐生新町織屋吉田清
助より届書写(天保九年三月)……………548

280 江戸市ヶ谷屋敷出入再開につき陸奥国伊達郡梁川村堀江与五
右衛門より願書写(嘉永元年十二月)……………549

第四節 武家の暮らし

一家計

281 尾張藩医浅井貞庵家借財のあらましにつき覚書
(文政十二年)……………550

282 藩士所持の借家住人の宗門改帳(延享三年三月)……………556

283 人足賃町並同様の取立て免除を求める用人支配鬼頭八郎より
嘆願書写(正月)……………558

284 二 御側寄物金と新田金
御側寄物金借用基準の定書写……………558

285 御小納戸新田金借用証文(文政三年十二月)……………593

286 三 職 芸
写本筆耕につき小田切春江より三輪源作宛書状(文久三年)……………596

第五節 武士身分の周辺

一 武士的処遇とその基準

287 在方居住の者への苗字帯刀・御目見宗門自分一札免許につき
取決め書写(享和三年四月)……………598

288 永代苗字帯刀免許につき笠松代官所より海東郡津島村渡辺新
兵衛宛仰渡し書写(天保五年五月)……………603

二 支配の者

289 町並一統とは別段の人別改を求めるにつき鍛冶頭津田助左衛
門らより再願書控(文政五年閏正月)……………604

290 御目見以上の格式を求めるにつき時計師兼鍛冶頭津田助左衛
門より願書控(六月)……………605

291 由緒により宗門自分一札免許につき鋳物師頭水野太郎左衛門
宛書付写(安永九年二月)……………606

292 『張州府志』への苗字記載・帯刀免許につき鋳物師頭水野太
郎左衛門より願書控(三月)……………607

293 小坂井新左衛門と同格の役所控席を求めるにつき水野太郎左
衛門より願書控(九月)……………607

294 尾張藩出入再開を求めるにつき近江国坂田郡国友村国友藤兵
衛より願書控(天保二年八月)……………607

第六章 寺社と領主

第一節 武家の菩提寺

323	経蔵が手狭であり破損もあるため文庫建設につき寺社奉行所より宝生院宛達書（九月）……………	658
324	散失防止のため古書を門外不出とするにつき寺社奉行所より宝生院宛達書（十月）……………	658
	二 自然への畏怖……………	
325	水難衆民のために津島神社安全祈禱の守札を天守へ納めるにつき書状および守札雛形（宝暦七年）……………	659
326	信濃国筑摩郡の藩領での山崩れによる仙人足の死者行方不明者につき通知書写（天保十五年六月）……………	660
327	十二代藩主斉荘心障のため木曾山伐採停止につき竹腰正富より成瀬正住宛書状（天保十五年八月）……………	661
328	木曾山乱伐による山崩れの被災者への救恤に関する記録（抄）（弘化元年）……………	662
329	木曾山崩れの被災者への藩主夫人および前々藩主による祈禱指示についての記録（弘化二年六月）……………	676
330	江戸市ヶ谷自証院へ齊荘の霊体を勧請するにつき成瀬正住らより石河光茂ら宛書状（弘化二年十月）……………	676
331	江戸城本丸炎上による普請のため木曾山檜材献納につき竹腰正富より願書（安政六年十一月）……………	677
332	江戸城本丸普請へ木曾材供出による山神崇など藩主懸念につき竹腰正富より書状（安政六年十二月）……………	677
333	木曾御嶽山護摩堂再建寄附帳（万延元年六月）……………	678
	三 本末関係の中の尾張……………	
334	乾坤院由緒書および歴代住職の名簿写（文政五年九月）……………	679
335	末寺支配に関する交渉へ藩士介入迷惑につき祐福寺より吉田藩寺社役所宛願書控（弘化二年十二月）……………	704
336	西本願寺門跡への藩領における饗応につき藩主への内願を助言する旨の書状（正月）……………	706

第七章 学・芸へのまなざし

第一節 藩校の運営

一 明倫堂

337	明倫堂別段登用による人事に関する記録（文久三年）……………	708
338	横井万之助家来小塚直持の明倫堂入学に関する記録（慶応三年二月・三月）……………	711
339	明倫堂への書物献納に関する記録（文久三年）……………	712
340	明倫堂蔵書の貸出に関する内規（文久三年）二月……………	714
341	明倫堂による書物購入に関する記録（慶応三年三月）……………	715
342	鷲津穀堂による明倫堂学制改革案（慶応三年二月）……………	716
343	御文庫蔵書の風入れ場所および閲覧日に関する鷲津穀堂より願書写（慶応三年六月）……………	721
344	学生詩会早々に終了したきにつき明倫堂主事より願書写（慶応三年八月）……………	722
345	他藩士による明倫堂見学に関する記録（慶応三年三月）……………	723
346	豊後国日田藩儒者広瀬孝之助らの明倫堂見学と詩会開催に関する記録（慶応三年七月）……………	725
347	他藩士による明倫堂見学に要した費用についての報告書写（慶応三年八月）……………	726
	二 江戸弘道館……………	
348	弘道館における春秋祭祀の執行方法についての評議を求める願書写（慶応三年二月）……………	728
349	明倫堂同様に弘道館学生への食事支給を要望するにつき大番頭より用人宛書状写（慶応三年六月）……………	728
350	在府藩士の文武一か所での修行を要望するにつき津田寛鏡より石河光晃ら宛書状写（慶応三年六月）……………	729
351	移転先の御楽屋にて文武開講につき渋谷三左衛門より内藤喜左衛門宛書状写（慶応三年十月）……………	730

第二節 所蔵書画と道具類

一 名古屋城

352 尾州御道具帳写 (抄) 731

二 江戸屋敷

353 江戸御道具帳写 (抄) 739

第三節 能楽・雅楽

一 能・狂言

354 尾州能舞台番組 (元禄十一年五月) 748

355 尾州御謡初に関する御手役者大倉家の記録 (文化十四年十二月) 750

356 十二代藩主斉荘初回国御能御賄のために調べた十代藩主斉朝代の記録 (抄) (天保十一年) 754

357 藩主稽古相手を命じる金春八左衛門宛御渡し書写 (二月) 761

358 渡辺董綱に乱を伝授した際の金春安住の記録 (寛政十一年) 761

359 石井流大鼓出精につき弟子に扶持を求める石井弥市より願書写 (文政十一年六月) 763

360 御手役者の内絶家の姓名につき金春安住より届書写 (文政十二年正月) 764

361 弟子の召抱えにつき金春安住より願書下書 (文政十二年正月) 764

362 御手役者大倉宣伴への加恩を求める金春安住より同朋宛願書下書 (文政十二年八月) 765

363 先年廃止された尾州詰扶持の復活を求める尾州住御手役者より願書写 (十二月) 766

364 賄金減少一件につき早急の訴訟を求める金春七十郎より願書控 (嘉永二年正月) 767

365 尾張徳川家における金春流復活を求める金春八左衛門より同朋宛願書写 (嘉永二年七月) 768

366 大倉家作成の御手役者分限帳 (天保十四年四月改) 770

367 大倉流の尾張における門人名簿 775

二 雅楽

368 楽人東儀文均「楽所日記」(抄) (嘉永五年・六年) 786

第四節 政治文化

369 朝廷へ貸与する初代藩主義直所持の駿河御讓本の目録写 (寛永元年二月) 796

370 去年より依頼の奉公人の件につき小堀遠州より竹腰正信宛書状 (寛永三年四月) 798

371 関白近衛信尋ら御成の件を初代藩主義直に伝えるにつき松花堂昭乗書状 (寛永三年六月) 799

372 初代藩主義直所持の三島茶碗拝見の件につき細川忠興書状 (寛永四年以降) 七月 799

373 松平宗月所持の書物を写し願うなどにつき堀貞邦より竹腰正信宛書状写 (寛永二十年) 九月 800

374 信州に関する書付差し越され礼につき初代藩主義直より松平宗月宛書状 (寛永二十年) 十月 801

375 十代藩主斉朝への松尾流家元松尾宗五の御目見の記録 (文政四年五月) 801

376 十二代藩主斉荘が裏千家流家元千宗室玄々斎より免許を受けるまでの記録 (天保十一年七月・八月) 802

377 千宗室玄々斎より十二代藩主斉荘宛裏千家流茶道秘伝免許状 (天保十一年八月・九月) 804

378 裏千家流家元千宗室玄々斎へ入門した藩士に関する記録 (天保十一年十一月) 805

379 成瀬家伝来の長久手合戦図屏風などの上覧に関する記録 (享和元年四月) 806

380 四代藩主吉通夫人所持の古今和歌集を大道寺直秀拝領時の口上書および礼状草案 (享保十七年九月) 812

第八章 幕末尾張藩と名古屋藩

第一節 書状にみる幕末維新期の尾張藩

381	竹腰家・成瀬家および中山家専横の件につき徳川斉昭より徳川慶勝宛書状写（嘉永二年七月）……………	814	396	大守寺直寅の年寄就任につき徳川慶勝より徳川斉昭宛書状写（嘉永六年）……………	835
382	大道寺直寅依頼の藩士への諭書につき徳川斉昭より松平義建宛書状および返答書（嘉永二年七月）……………	815	397	建白書中の西洋字禁止条項に関し情報を求める徳川慶勝書状（嘉永六年七月）……………	835
383	徳川慶勝上国の際の藩主としての振舞方助言につき松平義建より大道寺直寅宛書状（嘉永三年五月）……………	816	398	異国船渡来への防御策につき徳川慶勝より鳥津斉彬宛書状控（嘉永六年八月）……………	836
384	家老中西・佐枝に対する嚴重な処罰を求める徳川慶勝より阿部正弘宛内密書状控（嘉永四年十一月）……………	819	399	海防政策に対する意見を求める徳川慶勝より老中阿部正弘宛書状控（嘉永六年八月）……………	837
385	成瀬一人では中西・佐枝一件への対処手薄につき徳川慶勝より田宮如雲宛書状（嘉永四年）……………	822	400	家中への増上米解除の件につき徳川慶勝より田宮如雲宛書状控（嘉永六年八月）……………	839
386	千村仲冬の家老登用につき徳川慶勝より老中阿部正弘宛書状控（嘉永五年）……………	822	401	徳川斉昭幕政参与につき徳川慶勝より若年寄遠藤胤統宛書状控（嘉永六年）……………	840
387	肥田孫左衛門家老登用につき徳川慶勝より生駒周兎宛密書および水野惣右衛門書状（嘉永五年五月）……………	824	402	軍法節制の相談につき徳川慶勝より大道寺直寅宛書状（嘉永六年九月）……………	841
388	僧侶人数削減による効果などにつき徳川慶勝より徳川斉昭宛書状写（嘉永五年八月）……………	825	403	異国への対処および竹腰ら専横の件につき徳川慶勝より徳川斉昭宛書状写（嘉永六年十一月）……………	842
389	付家老内願筋につき成瀬・竹腰への説諭を願う徳川慶勝より徳川斉昭宛書状下書（嘉永五年八月）……………	830	404	江戸戦火の際における藩の対応につき徳川慶勝より肥田孫左衛門宛書状写（嘉永六年十一月）……………	844
390	付家老五家間席の件願通りにしたきにつき徳川治宝より徳川慶勝・徳川斉昭宛書状（嘉永五年八月）……………	831	405	牛痘拡充の件につき徳川慶勝より徳川斉昭宛書状写（安政二年二月）……………	845
391	付家老五家願は出願せずにつき徳川慶勝より徳川斉昭宛書状控（嘉永五年八月）……………	831	406	田宮如雲の側大寄合側懸り御免につき徳川慶勝書状写（安政三年二月）……………	845
392	付家老五家願につき正しい評議を求める徳川慶勝より若年寄遠藤胤統宛書状控（嘉永五年十二月）……………	832	407	江戸情勢などにつき徳川慶勝より田宮如雲宛書状写（安政三年二月）……………	847
393	中西・佐枝の復権防止を願う徳川慶勝より若年寄遠藤胤統宛書状控（嘉永六年四月）……………	833	408	熱田宮への大日本史奉納につき徳川斉昭と徳川慶勝の往復書状写（安政三年五月）……………	849
394	付家老二家を座元交代としたきにつき徳川慶勝より若年寄遠藤胤統宛書状控（嘉永六年四月）……………	834	409	帰国および江戸の情勢につき徳川慶勝より田宮如雲宛書状写（安政四年三月）……………	850
			410	江戸での年寄一件解決などにつき徳川慶勝より田宮如雲宛書状写（安政四年三月）……………	851

426	留守中における土気高揚を命ずる徳川慶勝より田宮如雲宛書状写（慶応四年三月）……………	865
425	議定職就任辞退につき徳川慶勝より朝廷宛書状写（慶応三年十二月）……………	864
424	長州追討軍の解兵につき徳川慶勝より田宮如雲宛書状写（元治元年十二月）……………	864
423	長州追討のための出兵を求める徳川家茂より徳川慶勝宛書状（元治元年七月）……………	863
422	公武一和により攘夷成功の依頼につき孝明天皇より徳川慶勝宛内勅（文久三年十月）……………	863
421	在洛中の厚遇御礼につき徳川慶勝書状（文久三年六月）……………	862
420	宇治御成につき徳川慶勝より徳川家茂宛書状（文久三年四月）……………	862
419	勅命による上京につき徳川慶勝書状写（文久二年十一月）……………	861
418	公武合体をめざす政策に対する徳川慶勝より徳川家茂宛意見書（文久二年六月）……………	859
417	徳川慶勝赦免後の処遇につき竹腰正富書状写（抄）（万延元年九月）……………	858
416	老名藩主松平定敬へ叙位・溜席仰付けを願う竹腰正富より大老井伊直弼宛書状（安政六年十二月）……………	858
415	これまでの精勤に見合う待遇を求める竹腰正富より大老井伊直弼宛書状（安政六年十一月）……………	857
414	徳川慶勝の処遇を憂慮する竹腰正富より大老井伊直弼宛書状（安政六年十一月）……………	856
413	徳川慶勝動静につき竹腰正富より大老井伊直弼宛書状（安政六年五月）……………	855
412	水戸藩家老武田修理との面談につき竹腰正富より大老井伊直弼宛書状（安政五年八月）……………	855
411	臨時登城の件につき徳川慶勝と徳川斉昭との往復書状写（安政五年六月）……………	853
427	水戸に謹慎中の徳川慶喜を江戸に帰すことを求める一橋茂栄より朝廷宛書状写（慶応四年五月）……………	865
428	会津藩主松平容保・桑名藩主松平定敬の赦免を求める一橋茂栄より朝廷宛書状写（慶応四年）……………	868
429	徳川慶勝より岩倉具視宛礼状写（慶応四年八月）……………	868
430	藩政に対する指示につき徳川慶勝より田宮如雲宛書状写（明治元年十月）……………	869
431	京都勤務要請があれば請けるにつき助力を求める徳川慶勝より田宮如雲宛書状写（明治元年十一月）……………	870
432	徳川慶勝議定職公務録（明治二年三から四月）……………	870
433	国政改革の徹底を希望する鷹司輔熙より徳川慶勝宛書状（明治二年六月）……………	873
434	成瀬正肥に四位を下されるよう願う徳川慶勝より大久保利通宛書状草稿（明治二年六月）……………	874
435	市ヶ谷へ預けの松平定敬の安否につき一橋茂栄より徳川慶勝宛書状（明治二年七月）……………	874
436	早期の帰国を願うにつき中野惣太郎ほかより徳川慶勝宛書状（明治二年七月）……………	875
437	尾張で政務を執りたきにつき徳川慶勝より成瀬正肥宛書状草稿（明治二年七月）……………	876
438	藩筋につき中村修之進をもって説明するにつき徳川慶勝より岩倉具視宛書状草稿（明治二年七月）……………	876
439	近松彦之進および尾崎銀三郎の登用につき徳川慶勝より成瀬正肥宛書状草案（明治二年七月）……………	877
440	東京での近況につき徳川慶勝より丹羽賢宛書状写（明治四年八月）……………	877
441	第二節 十四代藩主徳川慶勝「安政五年日記」 徳川慶勝日記（抄）（安政五年）……………	879

第三節 幕末の京都情勢と尾張藩

- 442 「西上記」(抄)〈文久三年〉……………897
443 熱田奉行隠密秋平による京都情勢内偵書〈元治元年七月〉……………907

第四節 「待賓館御用留」にみる勤王誘引

- 444 待賓館を明倫堂に設置につき通知書〈慶応四年正月〉……………911
445 勤王誘引懸りの姓名簿〈慶応四年二月〉……………912
446 待賓館および磅礴隊に要した費用の勘定書
〈明治二年十二月〉……………913
447 待賓館御用に尽力した者に褒賞金下賜につき通知書
〈明治二年十二月〉……………918

第五節 維新政府と名古屋藩

- 448 「旧名古屋藩藩録抜粹」(抄)〈慶応三年から明治九年〉……………918